

おお大勝利

平成 20 年度山東サッカー部報第 2 号 (4 月 14 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

東海に幸勝 内容には課題を残す

4 月 13 日寒河江高校グラウンドにて、村山地区リーグ、通称 M リーグ (初) が開催されました。県リーグ 1 部在籍チームは県総体出場が決まっているため、県リーグ 1 部のチームは 1 部のチーム同士でリーグ戦を行い、それ以外のチームは 5 月の地区総体の組み合わせをめぐって 2 リーグに分かれてリーグ戦を行います。山東は今期の初戦、東海大山形と戦いました。

東海は昨年華麗なパスサッカーを主体とするチームでしたが、今年のチームは縦パスを多用。狙いと異なってそうなたただけかも知れませんが、ともかく山東と同様のチーム作りの印象 (ポゼッションサッカーからカウンターサッカーへの転換)。ピッチ状況が悪かったこともあり、お互いに「蹴りあう」展開に。ボールがなかなか収まらず、ルーズボールが多い、内容的には非常に不満の残る試合でした。

東海は前半、山東のセンターバック 1 枚が釣り上げられ、DF ラインが手薄になったところをうまく突き、サイド突破、そしてセンターリングから見事なシュートで、先制。山東も中盤での競り合い、ねじり合いの中から、MF **五十嵐究** の見事なループシュートから同点。前半を同点で終える。後半も同様に一進一退でしたが、今年の山東の特徴の一つである「高さ」を生かしたプレーで、セットプレーから 2 得点。最後に東海に同じくセットプレーから得点され、追い上げられるも 3 対 2 で勝利。今季初試合を幸先良く初勝利で飾りました。

昨年春先に勝つことができず、波に乗れないまま県総体を迎えた経緯から、結果を重視することを周知して臨んだ試合。しっかりと結果が出て、その面では素直に喜びました。特に、今年のチーム目標の一つを「ヘディング、ボレーと何でもいいから少ないチャンスをものにするチーム」とし、ヘディング・ボレーの練習を繰り返しておりましたが、ヘディングシュートを織り交ぜ、得点機会をしっかりとものにすることは評価に値します。また競り合いでも山東には粘りがあり、東海に気迫で勝っておりました。「下手だけど勝ちたい」を合言葉に出発した今年のチームが仕上がってきたことを意味するでしょう。

ただもう少しボールが回るようにならないと、奪ったボールを敵にすぐ渡してしまう、もったいないゲームをしてしまいます。修正して今度の県リーグ初戦、モンテユース戦に臨みたいと思います。

県リーグ モンテユース戦 4 月 19 日 14:00 キックオフ 天童人工芝

新顧問あいさつ

この度、顧問になりました。佐藤賢二です。サッカーは素人ですが、なんとかサポートできるよう、頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いします。